第4回「公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会議」
ヒアリング資料

新たな時代に求められる授業改革の在り方
日野市立平山小学校の取組

平成23年7月15日（金）
東京都日野市立平山小学校

ヒアリング内容

１．日野市の教育の情報化を支える体制
２．平山小学校の概要
３．本校の学力向上に向けた取組とエビデンス
４．知識基盤社会においてＩＣＴは不可欠なツール
　（デジタル読解力）
　　事例第一部
５．２１世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿
　　事例第二部
６．特別支援学級におけるＩＣＴ活用
７．公開視察のご案内
８．35人以下学級を前提とした上でのこれからの学び

日野市のＩＣＴ活用教育における サポート体制のポイント

■教育長のもとに本部設立“教育の情報化戦略本部” 「ＩＣＴ活用研究委員会」平成１７年度～

教育CIO的組織

◆メンバー： 大学の教授（教師教育、教育工学の専門家）、
ＩＣＴモデル校の管理職・研究主任、
教育委員会や関係部署の課長・担当者、教育センター所員

■推進の要となる組織設立「ＩＣＴ活用教育推進室」平成１８年度～

室長＝教育CIO補佐

◆メンバー： 室長、事務職員、メディアコーディネータ
室長が、庁内の他部課や大学の専門家、関係業者等との調整役、コーディネート役を担う。

■学校のＩＣＴを取り入れるマネジメント体制の確立

学校CIO

◆校長のリーダーシップ、教務主任（主幹教諭）のマネジメント
→ 新しいことへの挑戦、発想の転換

◇平成22年度東京都教育委員会
健康づくり優秀学校（学校給食分野）
◇総務省ＩＣＴ絆プロジェクト
教育情報化事業採択校
◇日野市教育委員会　研究奨励校
◇パナソニック教育財団共同研究
「未来の教室」プロジョクト

笑顔のあふれるコミュニティスクール

日野市立平山小学校

Hirayama Elementary School

◆「笑顔」のあふれる元気な学校
◆「自立できる体力と学力（知恵）」の育成
◆「共助できる強さと優しさ」の育成

年６回の公開視察日にぜひお越しください！
① 5月18日(水)
② 6月22日(水)
③ 7月 6日(水)
④10月26日(水)
⑤11月30日(水)
⑥ 2月29日(水)

学校Webサイトをご覧ください！
全教員で、日々の取組を発信しています

学校運営協議会

地域の教育力を生かした特色ある教育活動

農業体験

淺川ガザガザ体験

伝統文化理解教育

クラブ支援

読み聞かせ

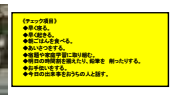
おそうじ

地域ぐるみで子供を育てる

平小みんなのやくそく

挨拶運動

親子花まる週間



平小まつりでのもちつき

日野市学校教育基本構想「教育のまち日野」に基づく重点施策を先進的に実現

◆一人一人を大切にし、自立に向けて『生きる力』を育みます　◆未来を展望しつつ、『時代と共に歩む教育』に取り組みます

確かな学力
夢と希望をもって前向きに生き、
知識を知恵に変えられるひらやまっ子

豊かな心
よく気付き、感じ、みんなで
力を合わせてがんばるひらやまっ子

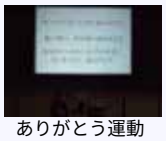
たくましい体
よく食べ、よく動き、
元気で強いひらやまっ子

子ども達一人一人の能力や特性に応じた学びと
子ども達同士が教え合い学び合う協働的な学び

一斉学習

個別学習

協働学習



ありがとう運動

四つ葉のクローバー運動

わかくさ学級との交流

ランチルームで交流給食

平小運動ミニマム

全校大なわ集会

安全で快適な学びの環境

ガラス張りの見える給食室

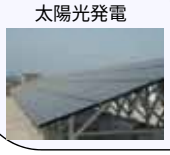
オープンスペース

屋上緑化

木のぬくもり・バリアフリー

スジエビとトンボの住むビオトープ

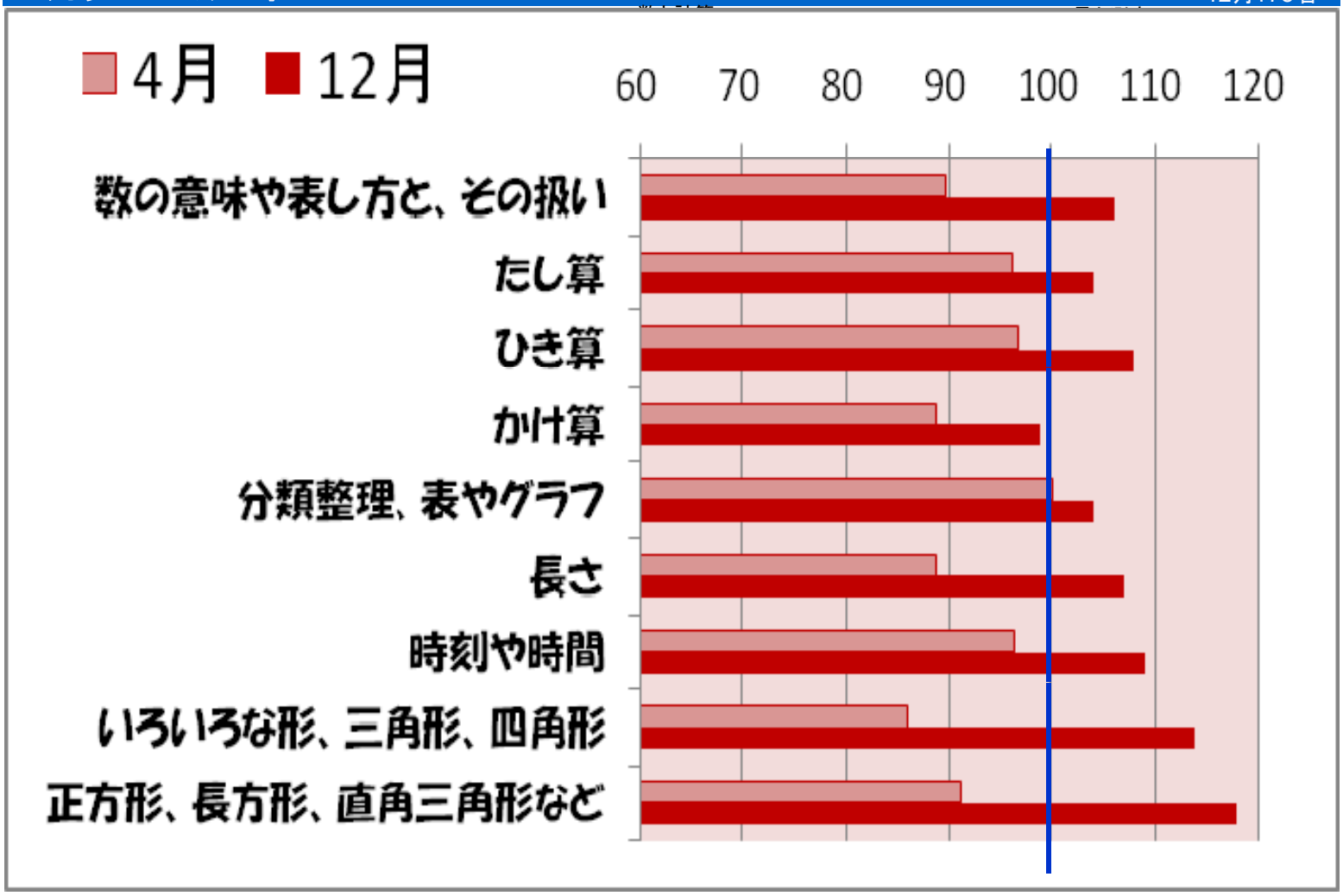
太陽光発電



子ども達に学力を付けさせたい！

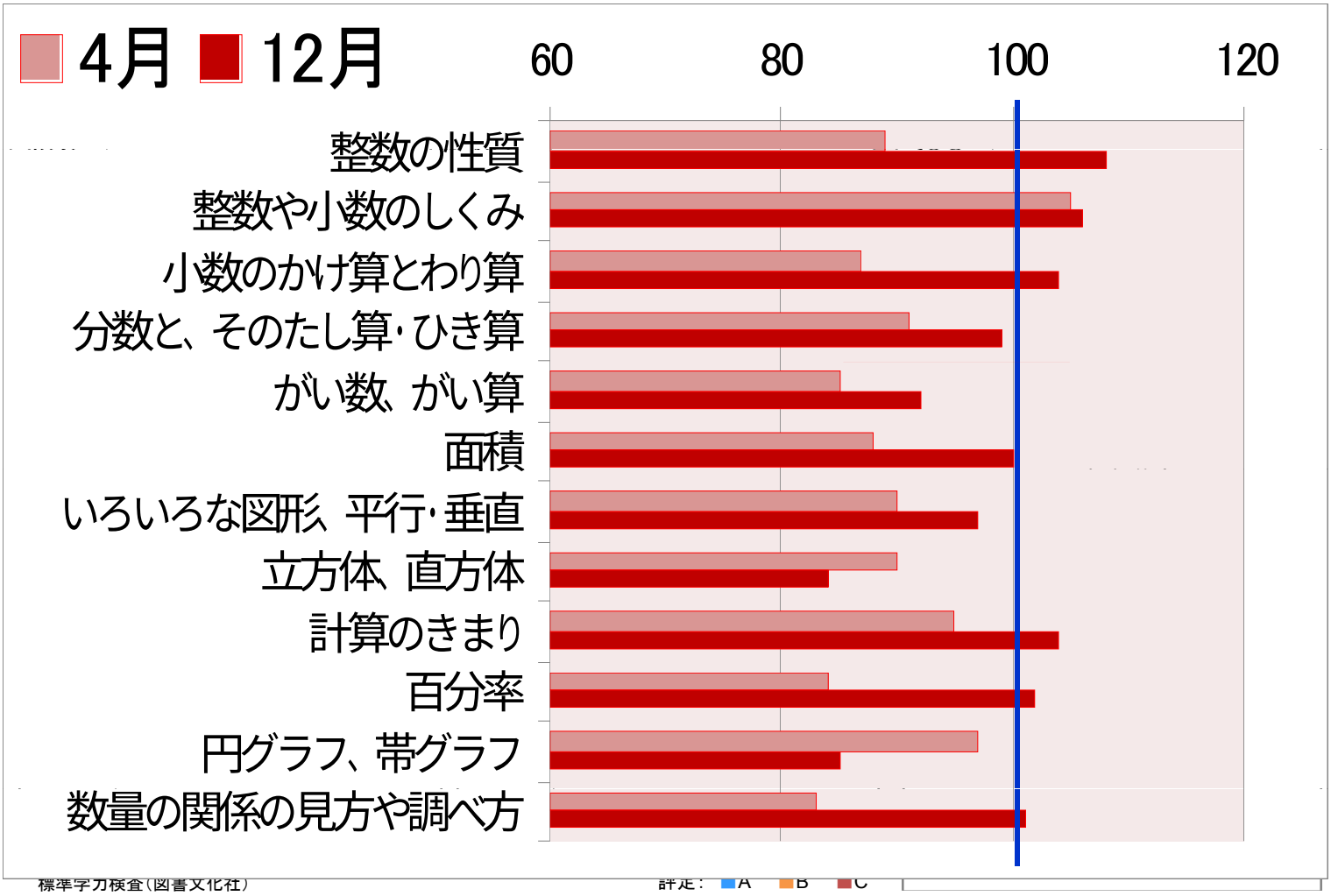
研究の成果

3年　4月：74名　12月：75名



研究の成果

6年　4月：67名　12月：69名



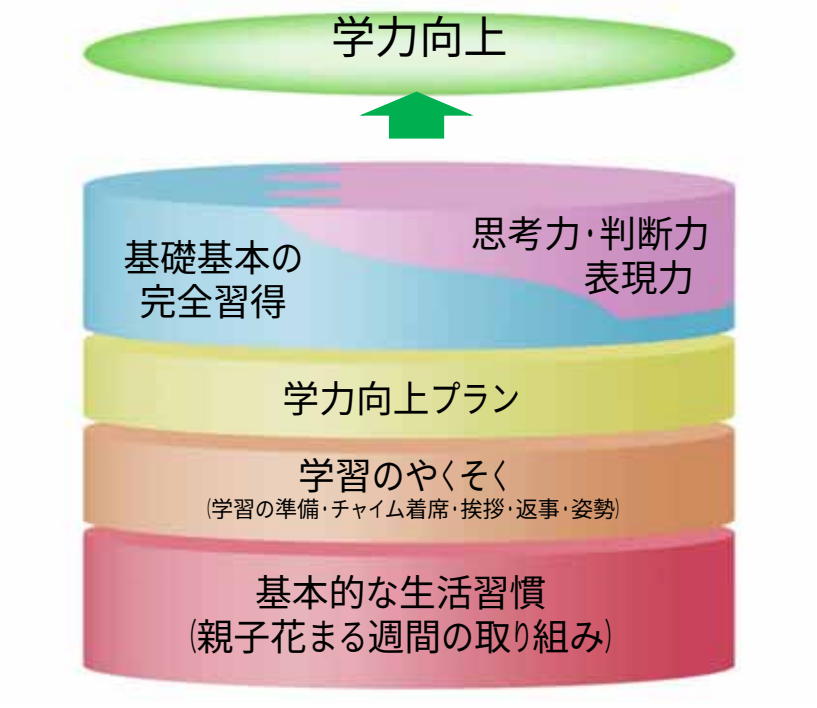
学力があがったその要因

1．基本的な生活習慣の見直し
（地域との連携）

2．つまずきのみられる児童への個別指導
（夏の補習）

3．指導方法の工夫⇒ＩＣＴ活用

1. 基本的な生活習慣の見直し（地域との連携）



「学力向上」の根底を支えるのは，基本的な生活習慣の確立である．日常の生活習慣を見直す「親子花まる週間」を，学校運営協議会とＰＴＡの協力のもと，2年間継続して実施している．

2. つまずきのみられる児童への個別指導

３．指導方法の工夫⇒ＩＣＴ活用

新たな学びへの挑戦

知識基盤社会において、ＩＣＴは不可欠のツール（デジタル読解力）

自ら必要な情報を発信したり、情報を判断・吟味したりして、世界中の多様な異なる立場の人々と意見を交わし、知恵を寄せ合い、知を創造していくことが求められる。

⇒

今回の調査で、「マルチメディア作品を作ること」や、「表計算ソフトを使ってグラフを作成すること」ができると回答した生徒の割合が最下位という結果が出た。

⇒

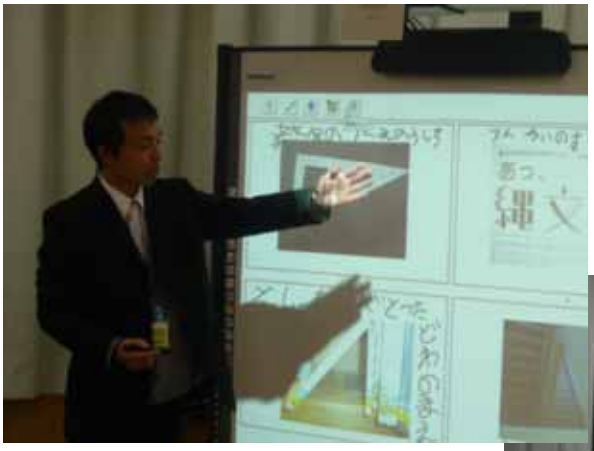
マルチメディア作品やグラフを作ることは目的ではなく手段。本校では、日常の教科指導の中で自然に取り入れている。

１年生

国語の漢字の筆順の勉強で、初めて一人一台のタブレットＰＣを活用することになるが、この時にコンピューターの基本操作も身に付けるようにしている。

２年生

算数で、身の回りの具体物の中から三角形や四角形を見つけてデジカメで撮った画像を発表し合っている。



３年生

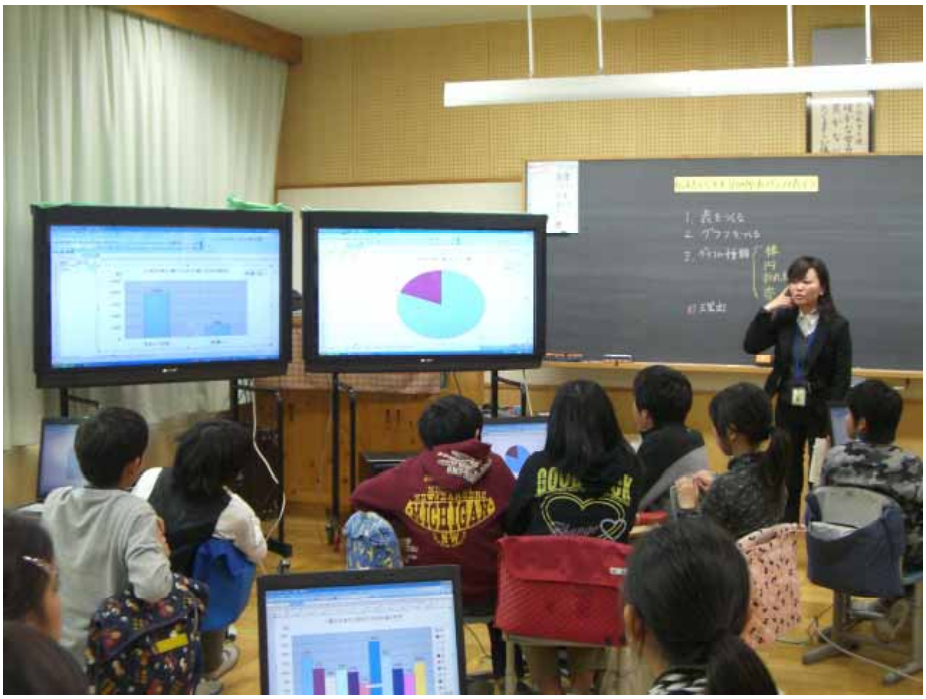
社会科の学習で身近な地域の特色を撮影してまとめ、他地域と交流している。

４年生

理科で実験方法や結果を動画で記録して討論するなどの実践を行っている。

５年生

「算数と情報」の学習で、総合的な学習の時間に育てた大豆に関する研究発表のための適切なグラフを作成している。



６年生

「生活の中の算数」の学習で、卒業に向けた感謝の会の限られた予算を有効活用するために、表計算ソフトでシミュレーションし、根拠に基づいて検討している。

２１世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿

（注１）各部の名称は仮称である。例えば、基本エンジンは、プラットホームということも考えられる。
（注２）基本機能としては、編集・移動・追加・削除・採点などが考えられる。
（注３）「学習者用表現・協働学習ツール」として、デジタルノート、メール等が考えられるが、学習者用デジタル教科書・教材の範疇に含めることも考えられる。
（注４）「指導者用ツール」として子どもたちの情報端末の画面をモニター及び制御すること等が考えられるが、デジタル教科書・教材の範疇に含めることも考えられる。
（注５）授業風景については、あくまでもイメージであり、特定の情報端末等を想定しているものではない。

一斉学習

個別学習

協働学習

特別支援学級におけるICT活用

・視覚に訴える

- 聞くことよりも見ることで理解しやすい。

・個に応じた指導

- 個々の学習能力に合わせた指導ができる。
- 自分のペースで進められる。

・学び合い（協働学習）

- ひとつの作品を協働して作る。
- 考えを分かりやすく表現するためのツール。

視覚	個別	協働

①実物を拡大

- 教科書などを拡大することで、授業に集中できる。
  - ＊机の上の教科書を触ったりして気が散る ことがない。
  - ＊どこに注目すればよいかがわかる。
- 実物が見えることで、わかりやすい。
  - ＊静止画ではなく、実際にやっていることが 見える。
  - ＊小さいものが大きく見える。

視覚	個別	協働

②自作教材の提示

- 児童の興味・関心を考慮し、絵や写真を加えた視覚に訴える教材の作成ができる。
  - ＊目で見て理解しやすいため、集中して授 業に参加できる。

視覚	個別	協働

個別学習（インタラクティブスタディ）

- 児童の実態に応じた教材を、自分のペースで行うことができる。

＊ゲーム感覚で楽しんで
学習に取り組むことができる。

＊できたことに達成感や
喜びを感じることができる。

視覚	個別	協働

個別学習（手書きドリル）

- 児童の実態に応じた教材を、自分のペースで行うことができる。

＊一人ひとりに丁寧に指導できる。

＊できたことに達成感や喜びを感じることができる。

視覚	個別	協働

協働学習のためのツール

- ICTを活用することで、友だちに説明したり発表したりしやすい。
- 視覚的にわかりやすいので、友だちの話に集中することができる。

視覚	個別	協働

みんなでつくる

- 一人ひとりが作業できる。
- 互いに影響し合うことで、作品やその子の考え方に何らかの変化がおこることが期待できる。

学びのイノベーションへの挑戦

平山小学校　公開視察日のご案内

年６回の公開視察日にぜひお越しください。

「未来の教室」を公開しています！

【公開視察日】

① 5月18日(水)
② 6月22日(水)
③ 7月 6日(水)
④10月26日(水)
⑤11月30日(水)
⑥ 2月29日(水)

１３時１５分～１３時３５分
オリエンテーション
１３時４０分～１４時２５分
全学級公開授業
１４時３５分～１６時
説明、質疑応答等

新たな時代に求められる授業改革の在り方

３５人以下学級を前提条件とした上で学びの質を高めるために必要なこと

1、少人数での学びに欠けることを補うツール

自分と異なる考え方との出合いこそが必要。
特に、最少人数の学級（一桁数）は、同じ文化や生活から同じ考え方、似た考え方になりがち。以心伝心、あうんの呼吸で、すんでしまう。

⇒ネットワークは、
多人数化、異なる考え方との出合いをもたらす最高のツールとなる。

2、学習者用情報端末環境では、少人数化より、チームティーチングが鍵

⇒ PCと人間教師の補完による個別指導環境では、複数の人間教師が有効。

＊学級規模は小さくなっても、教室は狭くしない。机は大きくする。
児童・生徒一人一台の端末を机に置けるように。
電子黒板を整備するスペースを確保できるように。